

高橋洋一著「霞が関埋蔵金男が明かす『お国の経済』」文芸新書 2008年5月20日刊を読む

国のかたちを考える

1. 中央銀行(日本銀行)の役割

(1) いまみんな低金利だと思っているでしょう。いま短期だと 0.5 パーセントぐらい。でもそれは名目金利。

経済に重要なのは実質金利で、これは名目金利から予想インフレ率を引いた数字なの。

(2) だから、インフレ率が上がらないと予想すると、実質金利は名目金利より大きくなっちゃう。マネーを引き締めているから、すごく上がった。実質金利が上がっちゃったんで景気が落っこっちゃった。これははっきりいえば日銀の失策。デフレのときにマネーを絞っちゃいけないという教科書に載っているセオリーをやらなかった。

逆にいうと、中央銀行のやるべきことは簡単なんだよ。CPI の物価上昇率がまだ 1 パーセントに行っていないときには金融を緩める。緩めるのに一番簡単なのは、国債を買ってマネーを出して、金利を下げる。

下がって調子がよくなってインフレ率が高くなっても、それで「1 から 3」パーセントの間だったら放っておく。何もしない。3 を超えたら逆にして金利を上げていけばいい。

(3) 「1 から 3」パーセントというインフレ目標を決めて、デフレだったらマネーを増やし、インフレだったら減らす。それだけだから。サーモスタットみたいな調節なの。平常時であれば自動運転できちゃう(笑)。

2. 民営化とは

(1) 郵政民営化というのは政府の資産負債ということでは、政府の持っている資産を落として郵便貯金で負債を落としていくから、いってみるとバランスシートのスリム化なんだよ。

(2) 民営化はみんなそうなんだ。子会社化したり、政府の外に出したりしていくから、政府のバランスシートから見るとスリム化なんだよ。

(3) だから、郵政の民営化を言っている人は増税を言いにくいと思う。タカ派と「上げ潮派」の違いというのは、資産をスリム化するかしらないか、ひいては、「小さな政府」か「大きな政府」という国家観の違いであって、世間でよく言われるように「増税」か否かではないんだ。

3. 道州制とは

(1)道州制なの。道州制でやると、東京以外のところもけっこう大きな単位になるでしょう。そうすると、税源移譲の意味が出てくるんだよ。

(2)こうやって、小さな政府をめざせば「地方分権」に行き、地方分権をきちんとやるためには最後は道州制になるんだ。そのうち、「大きな政府」か「小さな政府」かという政治闘争がますます激化すると思う。すでに地方からは「せんたく」などの政策集団が出てきているでしょう。

(3)さっきも言ったように、「地方分権」は国のあり方を根本から変えるし、「道州制」なんかにいっただら、憲法改正の話にもいきつく。

「埋蔵金論争」は、一時的な熱狂ではないんだ。国のあり方を問う、国家観をめぐる論争なんですよ。

[コメント]

社団法人経済同友会(東京)で著者の高橋洋一氏の講義をお聴きして以来、できるだけ著書を読ませて頂いている。これからの日本という「国のあり方」を考える上で最も参考になる論者の一人として高く評価している。本書は氏の啓蒙書として最も読みやすく、理解しやすい。

- 2009年1月27日林明夫記 -